

～自分やふるさとに誇りをもち、夢や希望にむかう子ども～

- 自ら学ぶ子ども
- こころ豊かな子ども
- たくましい子ども

玉っ子

NO3 R4.4.28

文責 校長 佐藤則之

コロナ禍における

運動会へ向けた新たな取組

「6年生が校長室を訪ねてきた・・・そのわけは？」

過日、6年生が校長室を訪ねてきました。一つは運動会のスローガンについての説明のためです。今年のスローガンは「玉っ子みんなが挑戦者!!すべての競技に全力注げ！」にしたのだが、校長の意見を聞きたいというものでした。

二つ目は、演技中にBGMとして会場に流すためのCDの購入交渉です。教員が選んだものではなく、別のCDの方が知っている曲が多くよいということでした。このような場を意図的に設けることが、自分事として運動会を意識するきっかけになればと思います。



「コロナ禍だから、今までと同じようにはできない。」

このような考えは、令和2年のコロナ禍が始まった当初、新型コロナウイルスへの感染を防ぐ意味で、様々な活動の実施の可否判断の際に検討されてきたことです。

新型コロナウイルスのことが少しずつ分かってくると、「新しい生活様式」が示され、「身体的距離の確保（できるだけ2m）」「マスクの着用」「手洗い」を基本的な感染防止策とし、日常生活では、上記に加えて、「3密」の回避や、換気、こまめな体温・健康チェックが効果的と示されました。それを受け学校では「何のために、どんな活動を、どのように実施するべきなのか」と試行錯誤を重ね、現在に至っています。

運動会も同じです。運動会の定番であった校庭にシートを広げて弁当を食する姿、PTA種目や来賓種目、幼稚園児や卒業生を対象とした種目等は見られなくなってしまいました。運動会を開催できたとの安堵感はあるものの、子どもたちがもっともっと輝くことができるような新たなアプローチはないものかと考えざるを得ません。

そこで、今年は運動会当日までの子どもたちの取組に次のような視点を加えてみました。

- 運動会の各学年の種目決定に、できるだけ子どもたちが関わる。
- 種目のルールについても、発達段階に応じ、子どもたちがその決定に関わる。
- 練習方法について、学年に応じ子どもたちの意見を取り入れ計画を立てる。
- 運動会スローガン決定について、代表児童が校長と協議する。
- 物品購入について、必要があれば6年児童が校長に直接交渉する。等々

今までは、教師が企画し進めてきたことでも、全て教師が決めなくてはならないということはありません。全て教師が決めて、教師のお膳立てしたところで子どもたちが取り組む今までの運動会のやり方ではなく、「子どもたちが主役である運動会」とするために、子どもたちの意見を、企画や運営に取り入れていくことが、子どもたちの自主性や主体性を育む上でより大切であると考えます。

開会式も今までとは違ってくるかもしれません。種目の入退場はどんな形になるでしょう。応援はどんな形で行うのでしょうか。子どもたちの提案ですから、可能なものとそうでないものの仕分けは、当然私たち大人がサポートします。特に安全面に関する判断は、私たち教職員の役割として気を抜くわけにはいかない領分です。

「子どもたちが主役になる運動会」・・・運動会当日、子どもたちが本気になり、集中して取り組んでいる姿を、ぜひ見ていただきたいと思っています。スムーズさに欠けたり、手間取ったりする姿が見られるかもしれませんが、自分で考えてやることの意味を優先した取組とご理解下さい。なお、感染状況次第では、5月21日（土）の運動会実施も、再度検討せざるを得なくなることをご理解願います。